2013年２月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度はグリーンランドの東海上でリッジ，ヨーロッパ南部でトラフとなった．北日本を含むユーラシア大陸北東部付近では広く負偏差となった．シベリア高気圧とアリューシャン低気圧は平年と比べて強かった．月の後半は，北日本で冬型の気圧配置が強まり，低温偏差となった．偏西風は中国から日本の東海上にかけて平年より強く，また，ユーラシア大陸南部では平年と比べて南北に蛇行した．

熱帯の対流活動は，インド洋東部からマレー半島付近，西部太平洋赤道域で平年より活発，オーストラリア北部から南太平洋西部で不活発だった．赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は，インド洋から太平洋西部を東進した．対流圏下層の赤道域では，インド洋中・東部で西風偏差，太平洋西部で東風偏差だった．対流圏上層ではユーラシア大陸南部で波列状の偏差パターンとなり，中国南部を中心に高気圧性循環偏差が明瞭だった．南方振動指数は－0.1だった．

世界の天候

2013年２月の世界の月平均気温偏差は＋0.12℃（速報値）で，1891年の統計開始以来，８番目に高い値となった．２月の世界の平均気温は，上昇傾向が続いており，長期的な上昇率は約0.76℃/100年（速報値）である．

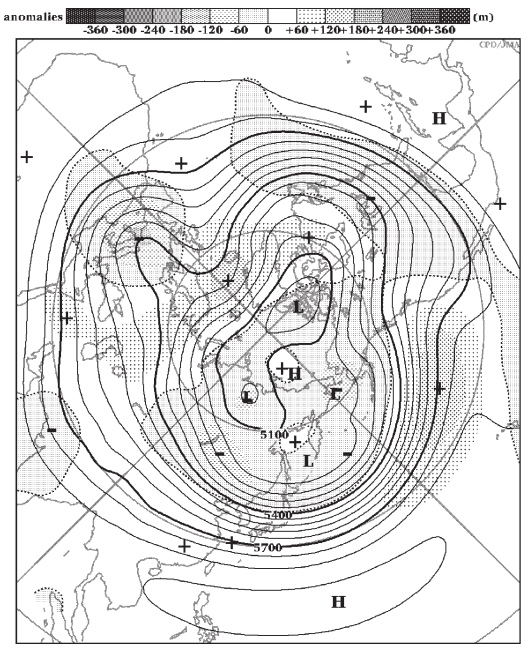
主な異常天候発生地域は次のとおり．

○東シベリア北部では異常低温となった．
○スマトラ島からカリマンタン島（ボルネオ島）では異常多雨となった．
○ブラジル東部では異常高温・異常少雨となった．

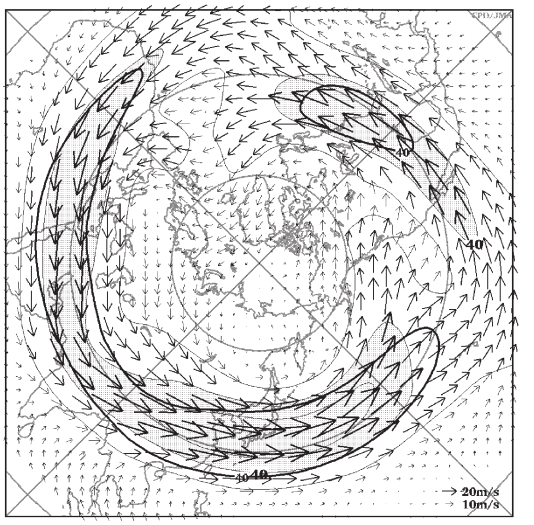
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※　より詳細な情報については，気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください．
http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html

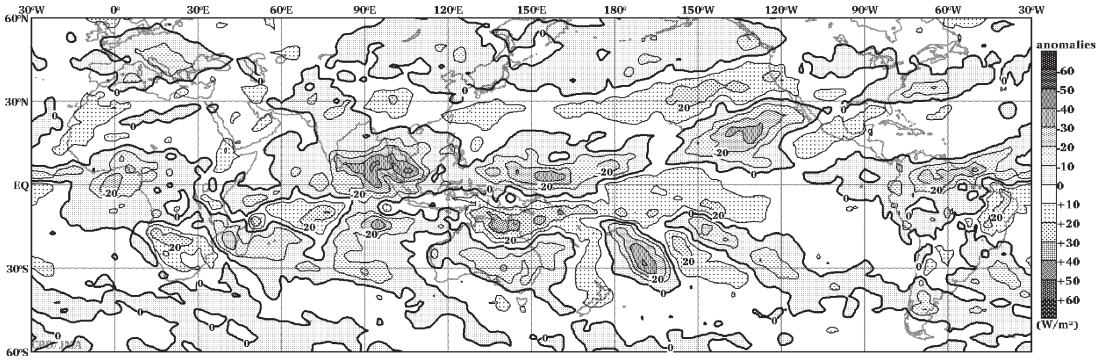
※　2012年の異常気象・天候や気候系の特徴をまとめた「気候系監視年報2012」を公表しました．気象庁ホームページからご覧ください．
http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/nenpo/index.html



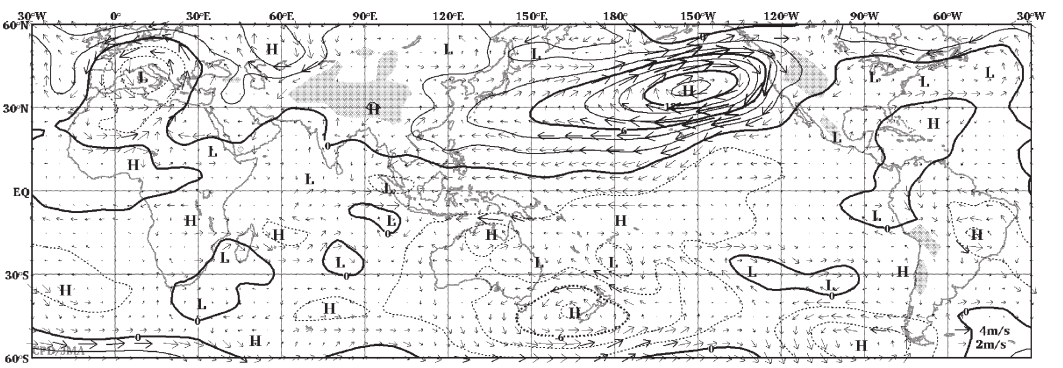
2013年２月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m．陰影は平年偏差．平年値は1981～2010年のデータから作成．



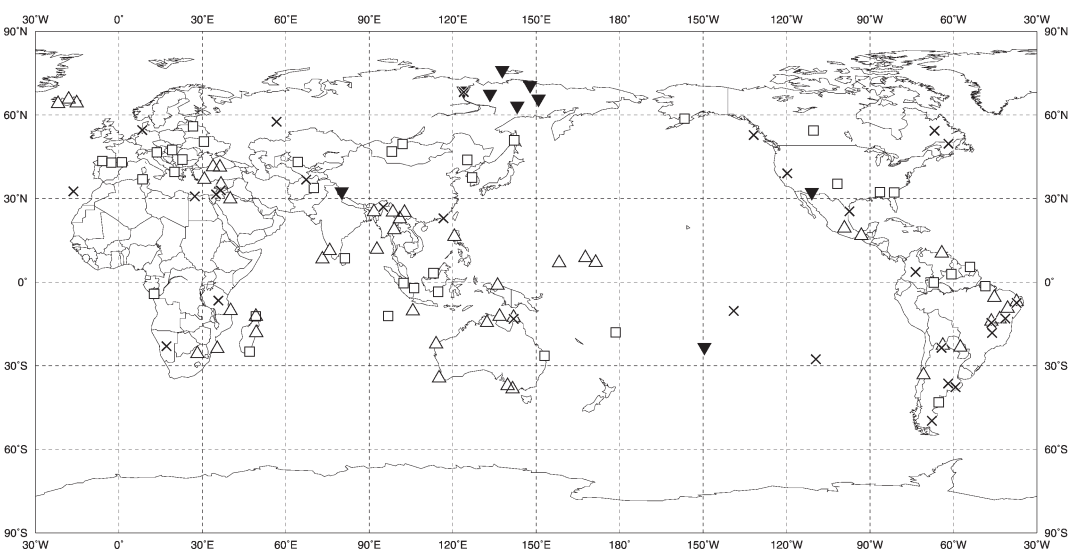
2013年２月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s．陰影部は40 m/s 以上．太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s 以上の領域を示す．平年値は1981～2010年のデータから作成．



2013年２月の月平均外向き長波放射量平年偏差
等値線間隔は10 W/m²で，値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される．元データはNOAA．平年値は1981～2010年のデータから作成．



2013年２月の月平均 850 hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は２×10⁶m²/s．平年値は1981～2010年のデータから作成．



2013年２月の世界の異常天候分布図　△異常高温　▼異常低温　□異常多雨　×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水５分位値が６および０．